

令和 2 年度

自己評価報告書

令和 3 年 3 月

日本航空大学校
北海道 新千歳空港キャンパス

日本航空大学校北海道の沿革

1932年（昭和7年）	10月	・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設
1933年（昭和8年）	2月	・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設
1936年（昭和11年）	8月	・財団法人 山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。 サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機
1939年（昭和14年）	7月	・山梨航空技術学校設立認可を受ける
1988年（昭和63年）		・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。 逓信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる ・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される
1942年（昭和17年）	1月	・国家の要請により山梨航空機関学校と改称 ・航空整備士養成の専門校となる
1945年（昭和20年）	8月	・終戦により閉校
1960年（昭和35年）	3月	・学校法人 梅澤学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける（学校教育法第一条による高等学校）
1964年（昭和39年）	6月	・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称
1970年（昭和45年）	10月	・日本航空専門学校（各種学校）の設置認可を受ける
1974年（昭和49年）	1月	・日本航空大学校と改称
1976年（昭和51年）	5月	・日本航空大学校（専修学校専門課程）の認可を受ける
1988年（昭和63年）	4月	・日本航空学園千歳校（専修学校専門課程）開校
1992年（平成4年）	4月	・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する
1994年（平成6年）	4月	・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称
1995年（平成7年）	4月	・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
	4月	・空港技術科を新設する
	5月	・白老滑空場開設
	9月	・労働省技能講習指定教習機関となる
1998年（平成10年）	4月	・郵政省無線従事者養成施設となる
1999年（平成11年）	4月	・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる
2001年（平成13年）	4月	・航空整備科を3年制に改編 ・航空工学科開設
2002年（平成14年）	4月	・航空システム科を新設 ・航空工学科を航空技術工学科に改称
2003年（平成15年）	4月	・白老町に日本航空専門学校白老校開設 ・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設
2004年（平成16年）	3月	・北海道労働局長登録教習機関となる
	4月	・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる

2006年(平成18年)	4月	・白老校に空港技術科航空観光ビジネスコースを開設
2007年(平成19年)	4月	・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定 ・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編 ・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定 航空従事者養成施設に指定される
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767)専門課程が国土交通大臣指定航空従事者養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称 ・航空整備科システムコース廃止
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称 ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称
2017年(平成29年)	11月	・キャビントレーニングセンター新設
2018年(平成30年)	1月	・女子寮(アメリアホール)新設
	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(航空整備科)
	4月	・白老キャンパスの国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスへ移転 学科定員を40名から80名に変更、男女共学とする
2019年(令和元年)	7月	・女子寮(アメリアホール)増築
	12月	・キャビントレーニングセンター2新設 ・教室棟(ダヴィンチホール)新設
2021年(令和3年)	4月	・校名を「日本航空大学校 北海道」に改称 ・航空工学科(4年制)を新設 ・研究科を新設

日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅澤義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持つ航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅澤鉄蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅澤重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

- **J** は、JAPAN（日本）、JAA（日本航空学園）の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を J-ship で育みます。

- **S** は、SPIRIT（精神）、SOUL（魂）の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に對して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることがあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

- **H** は、HEART（心）、HEALTHY（健全）の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があつてはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公徳心と健全性を育みます。

・ I は、IDENTITY（自己）の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の眞の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかりと伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性 を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

・ P は、POWER（力）の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運気とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

日本航空大学校 北海道 のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を磨き社会に役立つ人財を育成する

■令和2年度　自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空大学校北海道は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組み、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

1、対象期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価 (4 ~ 1)
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周 知されているか	4

状況および課題と改善策

- *教育の理念・目標においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、学科ごと企業との連携を図り社会に求められる人材育成を行っている。
- *学校の将来構想については社会経済や業界のニーズに応えるべく令和3年4月より4年制の航空工学科をスタートさせる。
- *教育理念、人材育成像などの周知は本校だけでなく学園全体で共有し、SNSによる情報発信をしている。
- *保護者や学生だけでなく、高等学校や資料請求者に向けても学内の様子や就職状況などをまとめた資料や、コロナ後の航空業界の展望などに関する資料を作成し本校の教育の必要性や意義を周知している。

■ 2 学校運営

評価項目	評価 (4 ~ 1)
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況および課題と改善策

- *航空業界に勤める人材不足が続く中、本校は優れた人材を育成するために、施設・設備の充実を図るとともに環境整備を行い、学生の教育環境を改善している。また、コロナ禍により、学生の安全を確保するため体温チェック機器・消毒液・検査キットなどを取り揃えた。

- *本学園規程により、人事・給与に関する制度は整備されている。
- *教育活動に関する情報公開については、コロナ対応状況、就職状況、学校近況報告など随時更新公開されている。また、学校HP以外でのSNSを活用した活動内容を常に発信している。
- *業務の効率化については、クラウドを利用したグループウェアシステムを導入して6年目になり教職員の活用状況は良好である。また、新たな校務支援システム（BLEND）を導入して情報を共有一元化することを行っている。

■ 3 教育活動

評価項目	評価(4~1)
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *教育理念に沿った人間教育の進展のために、定期的に実施していた理事長による学生全體への講話を、今年度よりYouTubeライブの配信で行い、直接学生に理念の理解を深める機会をこれまで以上に提供している。
- *オンラインでの授業の提供が全国的に迫られる状況の中、コロナ禍以前よりTeamsを活用した双方向通信による授業の準備を行っていたため、オンラインでの授業にスムーズに移行できた。授業だけではなく定期試験においてもe-ラーニングシステムにより実施している。また、Teamsを活用して個別に補講を提供しe-ラーニングシステムでの課題の提出、確認試験にてレベルチェックを実施するなどシステムの併用により教育到達レベル向上を目指した。さらにオンラインでのフォローも実施し、授業・

予習・復習を円滑に実施している。今後もオンラインの活用を進め、さらに教育の効率化と内容の充実を進めていく。

*従来の3学科に加え、航空工学科を新設。航空業界のみならず設計、製造の現場にも卒業生を派遣できるよう幅広く即戦力となる人材を育成するべく、工夫・改善を実施している。また、校務支援システムの導入による情報共有、効率化に向け取り組んでいる。

*キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直しは、教育課程編成委員会や就職先企業を訪問した際にヒアリングを行い実施しているが、さらなる改善を行い即戦力となる人材育成に努めていく。

■ 4 学修成果

評価項目	評価(4~1)
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3

状況および課題と改善策

*国際航空ビジネス科は11年連続、空港技術科、航空整備科は9年連続就職率100%を維持している。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により令和元年度より求人數、合格率についても厳しい状況であったが100%を達成できた。また採用中止も相次ぐ中、半数以上の学生が1社目の受験企業で内定を受けている。新規就職先企業の開拓や本校の特色である人間教育と実践教育の充実を更に進めたい。面接指導においても、複数の教員による指導や指導回数の把握により成果の向上を図りSPI対策もe-ラーニングシステムでの充実を進めて行く。

*e-ラーニングシステム、電子黒板の導入により予習、復習の徹底及び進捗状況の把握を図り学習効果を向上させてきた結果、1回目での合格率が向上した。学生相互で指導する事により、理解を深めることができ、知識の定着、統一が図られた。今後も進めて行き、更に資格取得率の向上を図るべく工夫をしていく。

*令和2年度は令和元年度に比べ退学者が減少した。進路変更による1年生の退学希望者には本学のコロナ禍における就職実績や就職指導担当者による説明などを行い理解させてきた。今後もきめ細やかな担任の面談等のケアを養護教員、外部カウンセラーと引き続き連携して実施していく。1年生を企業説明会へ積極的に参加させ、本学と企業の信頼関係や就職先の幅の広さを理解させることによりさらに退学率低減を図っていく。

*新型コロナウイルスの影響によりOB、OGの活動も大きく制限を受けているためOB、OGによる講演や、企業へのインターンシップの機会が減少した。令和3年度はインターンシップを再開する企業も増えることにより、卒業生及び学生の交流を深めて行きたい。また、教職員の定期的な就職先企業への訪問し通じ、卒業生の状況やニーズなど情報交換を積極的に行いたい。

■ 5 学生支援

評価項目	評価（4～1）
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *従来から良好な関係を築いている就職先企業に加え、新規就職先を開拓したことや昨年から開始したe-ラーニングを活用した就職情報ページの活用により、リモートでも最新の就職情報を閲覧できる環境を整備している。
- *従来より担任制の導入をしているが、双方向のe-ラーニングを活用し、リモートでも学生の悩み事、学業や進路の相談を行える環境が整っている。また、担任以外の教科担当・学科教員とも常に学生の情報を共有し、様々な角度から学生の変化に対応できる環境を構築している。
- *養護教員が2名常駐し日常生活に於けるケガや発病の初期対応を迅速に行ってい る。また、外部のスクールカウンセラーによるメンタルケアを継続して応対していおり、コロナ禍に於ける発熱者や濃厚接触者の対応、学生寮でのクラスター防止対策等、学校独自の安全基準を設けて隨時最善の対策を講じているため、現在に至るまで、クラスターは発生していない。また、アレルギーや肥満傾向のある学生に対しては、養護教員に加えて給食部の管理栄養士も交えた食生活のアドバイスを行っている。
- *従来体育会系11部門、文科系4部門の部活動の活動をしているが、コロナ禍に於いて安全な活動の確保が困難なため、現在部活動は全面中止している。安全な状態が整った後活動の再開を検討する。
- *食堂を設置しており、管理栄養士が学生の健康面を考慮したメニューに基づき、調

理師の作成した食事を提供し、寮生は朝/昼/夕、通学生は昼に摂ることができる。また、24時間体制で健康面・規律面を管理している学生寮を設置し、安心して生活することができる。

- *保護者に対しては、出席状況や成績通知を郵送する際に、学生の学習・就職状況や学内の行事等を随時お知らせしている。また、必要に応じて学校から連絡を取り、保護者との信頼関係の構築を図っている。特に度々発令される緊急事態宣言により授業形態の変更にご協力いただくため、公式LINE、HP上へお知らせを掲載すると共に郵送も行い、理解を得られるよう努力している。
- *国内エアラインの出向教員から最新の正しい情報を得ることができている。また、就職先企業の方や本校の卒業生に、リモートに於いて、学生に対して航空業界の現状や求められる人物像、最新の航空業界の情報についてご講演をいただいている。
- *中学校・高校等からのインターンシップや学校見学を積極的に受け入れ、生徒たちの社会学習の一環に貢献している。
- *道内の高校と連携し、高校の授業の一環として航空教育、キャリア教育を行っていく。

■ 6 教育環境

評価項目	評価(4~1)
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *社会のニーズを踏まえ、職業実践専門課程での教育編成委員会を通して、最新の正しい情報を得ることが出来ている。今後は教員個々の企業研究の機会を増やし、学生の教育・進路指導に役立てる。
- *令和2年度は、航空整備科の技能審査で使用する施設が完成し、航空整備科の技能審査や授業に使用している
- *航空工学科が新設され、3DCAD (CATIA) を11台、3Dプリンター4台を設置した。
- *新千歳空港をはじめ、羽田・成田空港等でも、職業実践専門課程賛同企業のご協力の下、それぞれの学科でインターンシップを行っており、学生は高いレベルで専門性の高い知識・技術を習得することが出来ている。
- *新型コロナウイルス対応においてはWi-Fiを学内すべての場所からアクセスできるよう整備した。座学のオンライン授業だけでなく、対面の実習作業においても教員の作業説明や教材を手元のタブレットなどで確認することで密を防ぎ、さらに換気用のサーキュレーターも各教室及び実習室に導入した。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

状況および課題と改善策

- *4月の緊急事態宣言に伴い通常実施している来場形のオープンキャンパス開催が出来なくなつたが、中止することなくYouTubeオープンキャンパスに切り替えて実施した。その後もコロナ感染拡大の状況を踏まえ、来場型とYouTubeを併用して実施している。
- *航空業界の裾野拡大を目的として北海道内及び全国の空港で開催していた「そらゼミ」についても航空各社からご協力をいただき、機内・制限区域内で事前に撮影した映像をもとに、YouTubeで実施することによりリアルな現場を再現できた。
- *学納金・有資格者特待制度等は、教育内容や施設設備の状況を鑑みて、同分野の他校と比較検討したうえで決定しており、ほぼ平均的な額と考える。

■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

状況および課題と改善策

- *財務諸表の通り、財務内容は安定している。今後も、一定以上の学生数を確保することで、財務内容の安定を図っていく必要がある。コロナ禍ではあるが、航空業界及び社会の動向を見極めながら、収入安定化・経費削減に努めて、財務基盤を強化していく。
- *収入安定化の対策として寄付金制度の充実を図った。保護者に対する寄付金制度は従来からあったが、卒業生や企業の方々からの寄付申出が増えているため、令和3年度より専用ホームページを立上げ、寄付金を募る準備を進めている。また、令和3年4月より新学科を設置しており、その収支についても注視していく。
- *予算編成については、必要性や整合性を学内審議で検討し、予算案を立案している。理事会・評議員会の決議により成立し、予算執行は各部署が責任をもって管理し、財務担当部署が内容を精査している。また、教育や業務運用上、必要が生じた場合は学

- 内稟議により追加措置を行うこととしている。
- *私立学校法および寄附行為に基づいて選任した監事2名による監査が行われ、監事は理事会に出席して監査結果を報告している。監査結果には長期にわたって指摘事項がないため、事業運営・業務・予算執行・会計等、学園運営全般において適法で適正な状態であると認識している。
- *財務諸表については、学校ホームページにて情報公開している。

■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

状況および課題と改善策

- *法令や設置基準の遵守については適正に行われており、遵守する規程については、学校内・各部署内で共有化されている。
- *個人情報の保護については、学園として「個人情報保護規程」「個人情報保護委員会規則」を定め、運用すると共に、担当部署における取扱いに関する注意事項の徹底、教職員や関係外部の方への案内等を実施し、対応している。
- *自己評価については、「学校自己評価委員会」を組織し、定期的な評価を通して問題点を明らかにすると共に、その対策および改善策を検討している。
- *自己評価結果については、学校関係者評価委員会開催後に本校ホームページにて情報公開している。

■ 10 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

状況及び課題と改善策

- *道徳教育の一環としてボランティア活動・地域交流を行っているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外部からのボランティア活動の依頼や地域交流会の中止で件数は減ったものの、学生たちは自主的に通学路の清掃や校内の花

壇整備、美化活動などを行った。次年度も、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、学生の安全に配慮しながら活動を行いたい。

*民間企業や航空少年団への本校施設の貸出しを行い、研修及び訓練を実施している。

■ 1.1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で海外研修など適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *併設の高等学校に留学生が多数在籍しているので併設校からの進学が多い。
教務部に留学生担当を配置しており、入国管理局の手続きの研修も受講し、教員が学生の書類に関しての代行業務を行い、常に支援体制を確保している。
- *国際航空ビジネス科では中国語・韓国語のカリキュラムを変更して授業回数を増やし、HSK（中国語検定）、ハングル（韓国語検定）の受験を推奨している。卒業までにHSK3級、HSK4級取得を目指している。今年は学校を準会場として受験とCBT検定（テストセンターに行ってコンピューターで受ける試験）で選択している。
- *国際航空ビジネス科では、平成29年度よりニュージーランドとオーストラリアで留学プログラムを実施している。令和2年は、新型コロナウイルスの感染拡大でニュージーランドとオーストラリアがロックダウンになった為、4月から留学予定であった学生は、現地EF語学学校からオンライン授業を受けながら、日本で渡航準備を進め、8月から4か月間の予定で安全なロンドンへと行先を変更して、3名の学生が羽田空港から出発した。
- *留学期間中はフルホームステイによる安全面・健康面共に体制を整えており、日本からは1回～2回/月 担当教員によるTeams面談・学生のレポート提出、学生の現地での生活、授業面でのヒアリングなどにも力を入れており、学科内教員が全ての留学生の実状を把握し、充実した留学生活を送れるようにコミュニケーションを密にしている。
- *令和3年の長期留学は、安全な国への渡航を模索し、ロンドン、トロント、バンクーバー、シンガポールへの留学を予定している。